

英語のコミュニケーション能力向上のための新しい学びと授業づくり

— ICT を活用した英語のブレンディッドラーニング —

反 田 任 (同志社中学校・高等学校)

1 研究の目的

平成24年度から中学校で実施された新学習指導要領にもとづき、「聞く」「話す」「読む」「書く」といった英語の総合的な4技能の定着を目指すため、ICT を活用したブレンディッドラーニングをベースにした授業を行い、その効果を検証・考察する。英語の授業においては、従来から一斉指導、個別学習、ペア学習、グループ学習や発表などさまざまな形態による指導が行われてきた。この研究においては従来の指導法と ICT の活用を組み合わせることにより、生徒の学力を確実に向上させて、自律的な学習姿勢を養うためのさまざまな方策を探る。また ICT の有効活用のあり方を模索し検証する。さらに、パソコンやタブレットで活用できる自作のデジタルテキストを作成し、ICT の有効活用と「新しい学び」を追求する。

本校では各教科で専門的な学びを深める教育環境の創出をめざし「教科センター方式」を採用し、すべての教科教室にノートパソコン、プロジェクタ、電子黒板をはじめとする ICT 機器が導入され、日々 ICT を活用した授業を行っている。ICT を積極的に活用することにより、学習者の関心・意欲を引き出すだけでなく「従来型の授業」から学習者の「学びのスタイル」を変えることが21世紀型の学力を養う大きな力となるのではないかと考えられる。

今回の研究は前述した英語授業における学習形態と ICT の活用を組み合わせることにより、従来の学習形態をさらに効果的なものにするのと同時に、ICT の利点を生かして教師→生徒の一方向の「学

び」ではなく、教師と生徒、あるいは生徒同士が双方向で「学びあう」という「新しい学び」の形を作り出すことをめざした。

2 研究方法

(1) ICT を活用したブレンディッドラーニングをベースにした授業を行い、生徒の英語運用能力の中でリスニング力、音読の力の向上をはかり、それが自由発話力(コミュニケーション能力)に及ぼす効果を検証する。授業の中では生徒同士が学びあう「協同学習」もすすんで取り入れる

(2) WBT (Web Based Training) 教材や自作デジタルテキストを作成、活用し、従来の教科書やプリントなどの紙ベースの教材のみの学習と較べて学習者にどのような効果があるかを検証する。

2.1 授業例1 パソコン(WBT)を用いて

授業例1(図1)では、“be going to ~”の表現を扱った。授業は、①プロジェクタとPowerPointを用いて“be going to ~”の表現を一斉練習→②一人一台のパソコンをe-learningを利用した個別学習→③個人で練習したdialogueをペアで練習→④ペアで“Let's talk about our plan.”というタイトルでdialogueを作成する(e-learningのWebページに入力)→⑤発表→⑥クリッカーで授業アンケートという流れである。一斉学習の流れの中で、一斉学習、個別学習はインプット、ペア学習では学習者同士の「学び合い」、Webページへの入力と発表ではアウトプットを行いながら学習内容の定着をはかった。

英語科学習指導案		2012年6月13日		
		同社中学校・高等学校 反田 任		
(1) 題材	Bridland English Course I Lesson 8 GrammarFocus 3,4 未来を表す表現 Be going to ~ (肯定文・疑問文・否定文)			
(2) 生徒	同社中学校 2年C組生徒 (女子19名 男子18名)			
(3) 本時の目標	"Let's talk about our plan" 前時までに学習した be going to ~ の表現を用いて dialogue を作成し、表現をしっかりと身につける			
(4) 本時の展開 (45分)				
時間	指導過程	教師の働きかけ	生徒の反応・活動	使用する ICT 機器
0	Greeting & Warming up	"Hello, everyone. How are you?" "What's the date today?" "What's the weather like today?." etc ※日付、天気などを提示する Lesson 8 GF3,4 の本文を聴き、音読練習をする	先生の質問に答える 画面を見ながら練習	パソコン(教師) プロジェクタ
5	未来形のまとめ	PowerPoint の画面を見ながら解説と英文の練習 be going to ~ の肯定文・疑問文・否定文についてまとめをする		パソコン(教師) パワーポイントの教材を用いる
10	ペアで練習	2人一組になって音読の練習、お互いにチェックしあう	プリントを用いて	
15	グループワーク	"let's talk about our plan!" ①課題の説明、グループワークの指示 ② be going to ~ を使った dialogue の例をパソコンで紹介する ③机間巡視してアドバイスをしたり、進行状況を見る	①画面を見て視聴する ②2人一組でアイデアを出し合い、レポートする(Web に書き込む) ③英文を読む練習をする	パソコン(生徒)
35	発表	2, 3組の前に出て発表させる	2, 3組前で発表(画面を見ながら)	
40	まとめ 評価	①学習した内容は 難しかった ふつう 簡単であった ②授業は わかりやすかった ふつう わかりにくかった	クリッカーで答える	クリッカー

図 1 授業のすすめ方

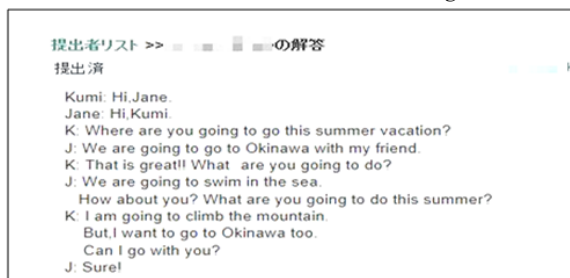


画像 1 *

画像 2 **

* 個別学習

** ペアで dialogue を作る



画像 3 Web ページに提出された生徒の dialogue の一例

2.2 授業例 2 DVD を用いて

授業例 2 では“A Pot of Poison” (New Crown English Series 2 三省堂) のスキットを扱い、グループ発表を行った。グループごとに映像の入った DVD をパソコンで再生しながら音読練習し、

最後に映像に合わせてアフレコをする感じで発表する。(画像 4) この授業では「聞く」→(教科書を見ながら)「読む」→(感情をこめて)「話す」という練習を通して学習者が共に学び合い、単純に英文を暗唱するより学習効果が大きい。また場面に応じた発話をする練習にもなり、コミュニケーション力もあわせて養うことができる。



画像 4

2.3 授業例 3 タブレット (iPad) を用いて

授業例 3 ではタブレット (iPad) を用いた授業とアンケートをもとにした学習者のタブレットに対する意識を紹介したい。

2.3.1 タブレットに対する学習者の意識(授業前)

iPad に代表されるタブレット PC による授業実践もフューチャースクール対象校をはじめ、各地で進み、教育界で注目をあびている。では学習者のタブレット PC に対する意識はどうか。授業開始前に調査した結果は表 1 の通りである。(対象：中学 2 年生 94 名)

表 1 タブレット PC に対する意識調査

質問	選択肢	割合(%)
iPad を今までに使ったことがありますか	何度もある	29.8
	2, 3 回触った	41.5
	今日がはじめて	28.7
iPad の操作は難しいですか	むずかしい	4.3
	ふつう	35.5
	簡単だった	60.2
iPad は学習で用いると効果があると思いますか	かなり効果がある	43.0
	効果がある	50.5
	あまり効果はない	6.5
iPad を用いているような授業を受けてみたい	強く希望する	57.5
	受けてみたい	37.5
	受けないとは思わない	5.0

この結果からみれば、「学習に iPad を使ってみよう」という生徒は95%でかなりモチベーションが高い。また「効果がある」と考える生徒も93.5%で、「使ってみよう」という理由に学習効果があると考えていることがわかる。さらに操作については、iPad を用いて Web 閲覧、日本語入力を体験した後のアンケートで、「むずかしい」と感じた生徒は4.3%だけでほとんどの生徒は違和感なく iPad を操作できたと感じている様子である。

2.3.2 iPad を用いた授業

iPad を用いた授業の詳細は以下の通りである。

	授業内容	詳細
1	iPad に慣れよう	(1) iPad の簡単な操作説明 (2) 文字入力の練習 (3) Web ページにアクセスしてアンケートに答える(e-learning システム活用)
2	英語のインタビューを聞こう	(1) e-learning のページにアクセス (2) 山中教授の英語のインタビュー(約10分)を自分のペースで聴いて、印象に残った英文を書き取る。(繰り返し何度聞いてもよい) (3) e-learning のページに自分の聴き取った英文と、コメントを入力する(クラスメートにも公開)
3	デジタル教科書を使って学習しよう	(1) iBooks Author で作成した自作デジタルテキストを使って音読練習 (2) ペアで発音チェック (3) グループで発音チェック (4) 全体で音読練習 (5) 内容理解の問題に取り組む (6) 英語の質問に対する自分の答えを LMS のページに書き込む (Realtime LMS を利用)

「2 英語のインタビューを聞こう」(画像5, 6)では10分ほどのインタビュービデオを一人1台の iPad で見て内容を聴き取り、英文を書き取る。この授業では学習者が自分のペースでインタビューを聞くことができ、判りにくい箇所は何度でも聴き返すことができるのが iPad を使う利点である。また iPad を使用する場合、ヘッドセットで聴く、スピーカーで聴く、と自由なスタイルで聴けるため学習者はリ



画像5



画像6

ラックスして聴くことに集中できる様子もみられた。この授業は専ら個人学習がメインであるが、「聴く」→(英文の理解)→「書く」、Web ページで学習者がお互いの発表を交流するというインタラクティブな授業が展開でき、また学習者同士の「学び合い」が図れた。

「3 デジタル教科書を使って学習しよう」では iBooks Author を用いて自作のデジタルテキストを作成し、次のような授業の流れを考えた。(図2)

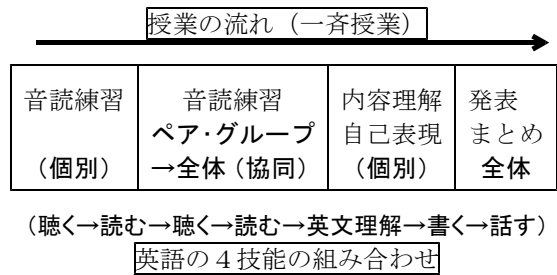


図2 授業の流れ(イメージ)

この授業(画像7参照)では、一斉授業の流れの中で iPad による個別学習を取り入れた。普段は音読練習は一斉に CD 音声や教師のモデルリーディングを聴いて行すが、デジタルテキストを活用すれば、個々の学習者が発音やイントネーションなどを各自のペースで何度も聴き返すことができる。今回は教科書(New Crown English Series 2 三省堂)の見開き2ページの英文(175語)を約15分間の音読練習でスラスラ読めるまでに仕上げることができた。このように iPad が個別指導が十分に行き渡らない点をカバーし、普段の一斉授業では教師のフォローに限界がある部分で大きな効果を発揮したと言える。



画像7

2.3.3 iPadの学習効果

iPad で3回の授業を行った後、学習者に対するアンケートを行った。(表2)

アンケート結果から iPad を用いた学習者の授業に対する学習意欲の向上は顕著である。これはフューチャースクール推進事業のすべての導入校に関しても、同様の結果がでている。^[1]

今後に向けても iPad を授業で使いたいという学習者が91.4%、デジタル教科書を使ってみたいという学習者が100%という結果から、iPad やデジタルテキストを授業で活用することに対する学習者の期待の高さがうかがえる。

表2 タブレットPCを使った授業について

質問	選択肢	割合(%)
iPad を使った授業はどうでしたか	楽しかった	92.6
	いつもと変わらない	7.4
	楽しくなかった	0.0
iPad を使った授業に集中できたか	集中できた	64.2
	いつもと変わらない	35.8
	集中できなかった	0.0
デジタルテキストは使いやすかったか	使いやすかった	86.4
	ふつう	11.1
	使いにくい	2.5
今後も今回使用したようなデジタルテキストを使ってみたい	常に使ってみたい	71.6
	時々使ってみたい	28.4
	使いたくない	0.0
今後も授業でiPadを使ってみたいと思いますか	使ってみたい	91.4
	どちらでもよい	8.6
	使いたくない	0.0

iPad を用いた授業後の感想を聞いたところ、「自分のペースで発音練習ができたし、デジタルテキストも使いやすかった。」「自分の苦手なところを見つけて、練習できる。」「短時間で集中して授業に取り組むことができる。」「先生と読んでいると、発音が分からなくてもスルーだったけど、自分のペースで練習できるから何度も練習できた。」(個別学習からペア、グループの協同学習を行ったことに対しては)「自分達で練習して確認し合うことで、自分のペースで音読練習することもできたし、できていないところを確認し合ったりすることができたのでとても良かった。」「デジタルテキストを使って授業を受けたほうが楽しく学べて頭に入ると思った。」と肯定的な感想が多かった。一方、デジタルテキストが使いにくいと答えた学習者は「使いにくいというわけではないが、紙の方が集

中できると思ったから。」「ノートに字を書いて受ける授業の方が頭に入るから。」と感想を述べている。

3 まとめ

さまざまな ICT 機器を用いて行った授業を通して得られたことは次のようにまとめられる。

- (1) ICT を活用すれば様々な学習形態を効率よく授業に取り入れることができ(ブレンディッドラーニング)、学習に対する意欲や集中力が向上する。
- (2) デジタルテキストを用いれば個々の学習者に応じた学習環境が同一授業内で提供できる。
- (3) ブレンディッドラーニングの中でペア、グループによる協同学習が威力を発揮し、学習者の理解を深め、英語の運用力を高めることができ^[2]、また学習者同士の「学び合い」ができる。

ICT の利活用については、「紙、タブレット、PC にはそれぞれの特性に応じた適切な学習がある」(白鷗大 赤堀)^[3]、「従来の学力を前提に考えている限り、デジタル教科書を使ったとしても劇的な効果が上がることはない。21世紀型スキルなど、これから求められる学力についても効果検証を行う必要がある」(豊福 国際大)^[3]など様々な指摘がある。ICT を有効活用するには、それぞれの機器の特性をよく理解することと、「新しい学び」を創造する教師の授業力にかかっているとんでも過言ではない。

引用・参考文献

- [1] 新井紀子、岩波ブックレット『ほんとうにいいの？デジタル教科書』、岩波書店、東京、2012
 - [2] 江利川春雄、『協同学習を取り入れた英語授業のすすめ』、大修館書店、東京、2012
 - [3] 教育家庭新聞(教育家庭新聞社)、2012
http://www.kknews.co.jp/maruti/news/2012n/0903_7a.html (2013年1月31日アクセス)
- * 反田任、情報コミュニケーション学会第10回全国大会発表論文集「タブレットを用いた英語のブレンディッドラーニング」、2013
- * 岡山県総合教育センター『ブレンディッドラーニングによる授業実践とその効果—外国語学習におけるeラーニングの活用—』2009-2010
- * 宮地功、『eラーニングからブレンディッドラーニングへ』、共立出版、東京、2009